

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	3771500406
法人名	ハート・ケア・シオザキ有限会社
事業所名	グループホーム袖村
所在地	香川県丸亀市飯山町西坂元928-1 (電話)0877-56-8522

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月25日	評価決定日	平成20年12月8日

【情報提供票より】(20年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年11月15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	おむつ代等実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	550円
	夕食	550円	おやつ	100円
または1日当たり		円		

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	79歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮井内科医院 三崎歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設当初より、地域の中でその人らしく過ごせるように支援することを理念としている。家族経営のため仲むつまじく、その子ども達も高齢者とともに、庭や近くの散歩を楽しんだり、一緒に遊ぶなど和やかな雰囲気の中で一日が流れている。その様子は曾祖父母、祖父母、父母、子、孫までが揃って暮らしている大家族を想起させる。また、田園住宅地にあり平屋建てのためかグループホームという違和感は見られない。周辺地域の人たちも利用者が散歩をしていると声をかけてくれ地域に根付いている。利用者が恙無くすごせるよう生活史を記入するなどの工夫をしている。利用者の家族も頻りに訪れ、職員とも気さくに話し利用者の様子を聴くだけでなく、職員に要望なども伝えている。家族経営の利点を活かしながら今後のさらなる発展に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、自己評価の取り組みを管理者のみでなく、職員が一緒になって確認・協議することが改善課題としてあげられていたが、職員体制の厳しさなどから目覚しい改善は見られなかった。併設施設を持たない単独事業所のため経営状況を見ながらすすめていかなければならないが、今後、事業所内の会議や研修会の時間帯に人数を増やすなどの工夫を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価を実施することの意義を理解しているが、家族運営であることから管理者が中心となり取りまとめ、職員全体での話し合いが不十分なようである。毎日短時間でも会議の時間を開き、一項目ずつでも日々の取り組みを振り返る機会を増やすよう期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、家族4名、民生委員1名、福祉ママ1名、市1名が参加し1時間ほど会議を行っている。サービス向上の取り組みや家族の意見や気持ちを取り入れることや利用者の処遇改善を日常的に実施するよう心がけている。「心のありよう」などを議題としているが、その内容についての記載が不十分である。今後、運営推進会議で出された意見や外部評価、外部での研修内容を職員で話し合う場を設けるなど、さらなる工夫を重ねることを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>外部評価時も数人の家族が面会にきており、日々の暮らしの様子を収めた写真を見せながら話すなどきめ細やかな報告を行っていた。利用者の家族が面会に来た際も自らの親族を迎え入れるような親しみのある対応をしており、家族も忌憚のない意見を述べている様子がうかがえた。また、家族の意見や要望を聞き入れ、すぐに対応するよう努力している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>自治会活動などの地域活動に参加することはできていないが、近所の団地の方と日常的に付き合っている。また、農作物などを持ってきてくれるなど設立後8年の歩みの中で、地域の人たちとの密接な関係が築けている。今後、さらに地域の方たちとの交流が広がるような工夫を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域の中でその人らしく過ごせるように支援することを理念としている。家族経営のため仲むつまじく、その子ども達も高齢者とともに、庭や近くの散歩を楽しんだり、余暇時間にビーチボールで一緒に遊ぶなど、和やかな雰囲気の中で一日が流れている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「利用者と職員は家族として苦楽を共に暮らす」を理念としており、自然な形で取り組んでいる。家族経営の利点が活かされ、一日の様子を見ていると曾祖父母、祖父母、父母、子、孫までが揃って暮らしている大家族を想起させる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動などの地域活動に参加することはできていないが、近所の団地の方と日常的に付き合っている。また、農作物などを持ってきてくれるなど設立後8年の歩みの中で、地域の人たちとの密接な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価を実施することの意義を理解しているが、家族運営であることから管理者が中心となり取りまとめ、全体での話し合いが不十分なようである。改善点については取り組めるところから実施している。	○	職員すべてが自己評価の作業に関わるよう様々な工夫(例:毎日短時間でも会議の時間を開き、一項目ずつ自己評価をするなど)をし、客観的な目で日々の取り組みを振り返る機会を増やすよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族4名、民生委員1名、福祉ママ1名、市1名が参加し1時間ほど会議を行っている。サービス向上の取り組みや家族の意見や気持ちを汲み取ることや利用者の処遇改善を日常的に実施するよう心がけている。	○	運営推進会議で出された意見や日々の利用者や家族の意見を参考にし、今後さらに日常的なサービス向上に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>多忙なため運営推進会議以外に市担当者との行き来する機会はつれていない。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理などを家族が面会に訪れた時や電話で報告している。外部評価時も土曜日ということもあり、数人の家族が面会にきており、日々の暮らしの様子を収めた写真を見せながら話すなどきめ細やかな報告を行っていた。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の家族が面会に来た際も自らの親族を迎え入れるような親しみのある対応をしており、家族も忌憚のない意見を述べている様子がうかがえた。苦情や不満については市の介護支援課、国保連合会に苦情を表せる方法をとっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設当初から家族による運営がなされているため、職員の産前産後の休暇などによる不在はあるが、職員の移動はない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月2回の施設内での学習の他、職員の経験に応じた外部研修などを受講させている。</p>	○	<p>自らの施設の良いところやすばらしさを再確認することになるので、職員の研修機会をさらに増やすことを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ケアマネジャーの研修、同業者間の交流を図り、サービスの質を向上させるよう努力している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所初期に家族や本人から、これまでの生活の様子を聞いたり、個人生活史を記入し参考にして対応するなど、馴染めるよう気遣い細かな対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の介護度が次第に上がり、菜園や食事づくりに参加することはほぼ不可能となっているが、常に本人の思いを聞き、対応し喜怒哀楽を共にし生活するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者自ら希望を言うことは少ないため、本人や家族から若い頃の様子を聞くなかで、一人ひとりの心の奥を感じつつ、その人に合った支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人の生活史や現在の様子をふまえると共に、家族の意向を取り入れ、管理者が中心となって介護計画を立てている。また、日々の変化など気付いた時点で職員同士で話し合い介護計画の変更をしている。	○	職員すべてが介護計画立案に関われる機会をさらに増やし、アイデアを提示する機会を増やすことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態が変化するなど必要な場合は、管理者が中心となってプランを立て直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	県下で9番目の開設という経験を活かし、様々な地域からの見学や介護相談などに応じている。また、グループホーム開設の相談に来る事業者もあり、これまでの実践の教訓を話すなどの役割を果たしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に一度、近医による往診があり、その際に全員受診、変化があればその都度受診し、適切な医療を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の段階から重度化した場合や終末期のあり方について家族との話し合いを重ねよう努力している。また、どこで最期を迎えたいかなども忌憚のない話し合いを重ねている。さらに現在、要介護5の利用者が4名おり、家族、職員、医師との間でその都度方針を話し合い、共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個室になっており、利用者個人の持ち物も整理され、押入れや引き出しに入れるなど、プライバシーが守れるようにしている。また、記録等は入所者や家族などの訪問者の目にふれないように、事務室に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや思い、その日の体調などを大切にして、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園でとれた野菜や地物の魚を中心に考え、目と舌で楽しんでもらっている。季節ごとの野菜や近所の人や利用者の家族が持ってきたものを上手に使うて献立を立てている。最高齢者を含め全量摂取できていて、肌つやが良い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	16時頃を中心に毎日ゆっくりと入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の高齢化、重度化が進行しているので、日々恙無く過ごせるよう支援している。職員とその子どもと一緒に庭になる果物や花を眺めたり、ボールなげをするなど、仲睦まじくほほえましい関係が築かれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者で歩ける人は、天気の良い日に、その日の体調に合わせて散歩をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間や居室、窓やドアなど玄関を含め、すべて鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震時などの避難法を職員間でよく話し合っている。また、スプリンクラーも近日中に設置予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	菜園で取れる旬の野菜と魚を中心に食事を作っている。また、味噌やお茶を利用者とともに手作りしており、栄養バランスも考えた食事となっている。また、水分も10時と15時30分に、牛乳かコーヒー牛乳、お茶など、コップ1杯ずつ、利用者の好みに沿って提供している。量も申し分ない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の掃除も行き届き、トイレのにおいなどもない。昼は居間で過ごすことが多いので、室内の邪魔にならないところにドライフラワーなどを置き、安らぐ空間づくりに努めている。また、夜間の照明にも配慮し、くつろげる空間であるよう心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の品や、必要なじみの物を持ってきてもらっている。また、利用者の好みに合わせベッドや家具を配置し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		